

第2回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について

1 日 時 令和7年10月27日（月） 午後2時45分から午後4時45分まで

2 場 所 徳島県立国府支援学校（徳島市国府町矢野字松木348番地）

3 出席者

- (1) 委員12名
- (2) オブザーバー5名
- (3) 特別支援教育課長ほか

4 議 事

- (1) 検討事項に係る情報提供及び情報共有
- (2) 学校見学
- (3) 検討事項についてのグループ協議

5 各委員からの主な意見（グループ協議）

テーマ：「次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保について」

〈多様化する障がいに対応できる専門性の担保・向上の取組〉

- 医師などの外部専門機関と積極的に連携する必要があるのではないか。
- 校内外の専門性の高い人材とつながる仕組みを作り、成果報告会を開催してはどうか。
- 外部講師の活用や事例検討を増やすことが望ましい。
- ICT (VR、AI シミュレーション、メタバースなど) を活用し、障がいの疑似体験や理解を深める研修を導入してはどうか（偏見の解消にもつなげる）。
- 噛下機能、精神・二次障がい、医療的ケア、アレルギーなど、多様化するニーズに対応するための事前学習や研修の機会を設けてはどうか。
- 障がいの重度化・多様化に伴い、教員の専門性の範囲が広がっており、家族支援のスキルも必要だと思われる。

〈教員不足解消につながる人材確保策の検討〉

- 大学などで教職の魅力を積極的に語り、伝える機会を増やしてはどうか。
- 小・中・高校生向けのインターンシップやボランティアを推進し、早い段階で特別支援学校や子どもたちの実際を知ってもらうことが大切だと思う（「現場を見る」「子どもと関わる」ことの重要性を強調）。
- 映像や写真、メディアなどを活用し、教職や特別支援教育の魅力ややりがいに関する情報発信をしてはどうか。
- シルバーパートナーシップの活用や、医療・福祉分野からのアプローチを検討してはどうか。
- 非正規・臨時採用の教員が安心して働くバックアップ体制の構築が必要だと思う。
- 例えば、採用後3年間の免許状取得猶予期間を設けることで、特別支援学校教諭免許状を保有していないが意欲のある人材を、正規採用してはどうか。
- 業務内容を精選し、物理的な負担を減らすべきである。
- ICT（Zoom、オンライン）を活用して業務の効率化を図るべきである。
- 教職に対する多忙感のイメージを払拭できるよう、教科外の支援業務についてアウトソーシング（外部委託）を検討してはどうか。

(資料1)

徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議 委員名簿

特別支援教育課
令和7年10月27日

区分	番号	所 属 団 体 名 称 等	委 員	
			役 職	氏 名
学識経験者	1	児童発達支援・放課後等デイサービス運営会社	顧 問 (元大学准教授)	富樫 敏彦
	2	鳴門教育大学 特別支援教育コース	教 授	小倉 正義
	3	四国大学 児童学科	主 幹 (併任准教授)	喜馬 久典
	4	徳島大学 デザイン型AI教育研究センター	センター長	寺田 賢治
障がい者団体、医療・福祉関係者	5	社会福祉法人 徳島県手をつなぐ育成会	理事長	島 優子
	6	独立行政法人 国立病院機構 とくしま医療センター東病院	療育指導室長	佐々木 祐二
	7	就労支援 Sole	職業指導員	香川 育子
	8	放課後等デイサービス ウィズ・ユーかもじま	管理者	喜多 麗香
	9	中央こども女性相談センター	次 長	遠藤 朋子
学校関係者	10	徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校	校 長	廣島 慎一
	11	板野支援学校	教 諭	上西 ちさと
	12	阿南支援学校	教 諭	今井 光子
	13	池田支援学校美馬分校	教 諭	中 李佳
オブザーバー	1	国府支援学校	校 長	田中 清章
	2	国府支援学校	教 諭	楠 大地
	3	国府支援学校	教 諭	柳川 大輔
	4	国府支援学校	教 諭	喜来 雄太
	5	国府支援学校	教 諭	久米 紫穂

(資料2)

第2回 徳島県特別支援学校の 教育環境に関する検討会議

事務局説明 情報提供

徳島県教育委員会

1

徳島県立特別支援学校の教育環境に関する有識者会議

◆ 検討事項

(1) 特別な支援を必要とする児童生徒数の今後の人数予測

- ① 特別支援学校に在籍する児童生徒数の推移の見直し
- ② 人口減少等を踏まえた予測に基づく、今後の対応方針の検討

(2) 次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保

- ① 多様化する障がいに対応できる専門性の担保・向上の取組
- ② 教員不足解消につながる人材確保策の検討

(3) 特別支援学校に在籍する児童生徒が、可能な限り地域の中で共に学ぶ教育の実現

- ① 徳島県の現状や地域性を踏まえた「インクルーシブ教育」の構想
- ② 既存ストックを活用した教育環境の検討

2

本日の検討会議について

- 1 検討事項に係る情報提供及び情報共有
- 2 学校見学(国府支援学校)
- 3 検討事項についてのグループ協議

3

1

検討事項に係る
情報提供及び情報共有

4

5

特別な支援を必要とする児童生徒数の今後の人数予測

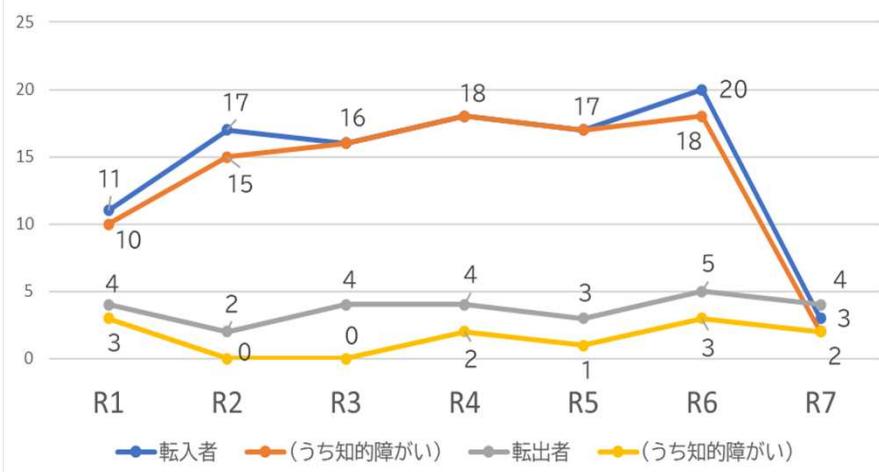
【委員の発言要点】

- (1) 地域の学校から特別支援学校へ、または、特別支援学校から地域の学校へ転学する児童生徒の状況を知りたい。(特に、知的障がいの児童生徒)
- (2) 知的障がいの特別支援学校の児童生徒予測数について、療育手帳の判定の推移が分かれば予測できるのではないか。

5

特別支援学校における転入出者の推移

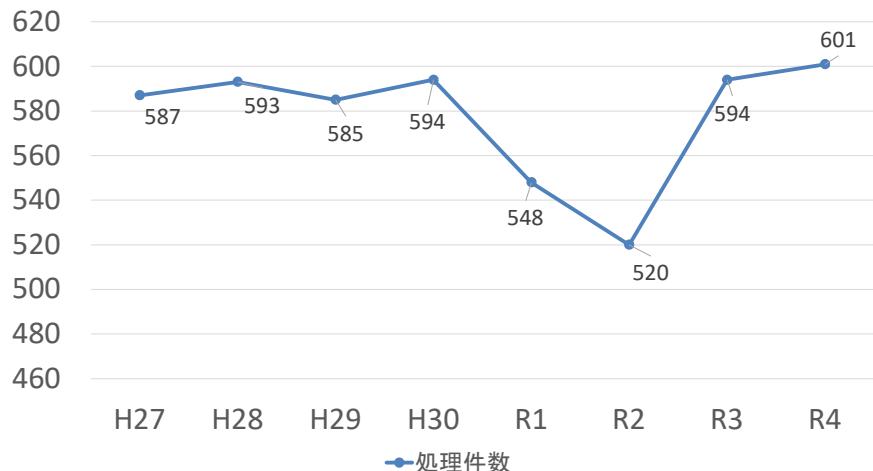
徳島県立特別支援学校における転入出者の推移
(※小中学部の児童生徒対象)



6

療育手帳の判定処理状況

療育手帳年度別判定処理状況

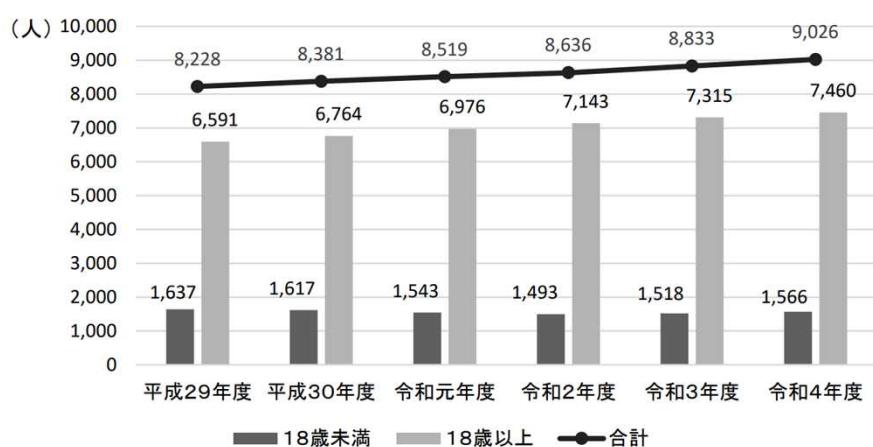


出典:こども女性相談センター業務概要より

7

療育手帳の所持者数推移

療育手帳所持者数の年齢別推移



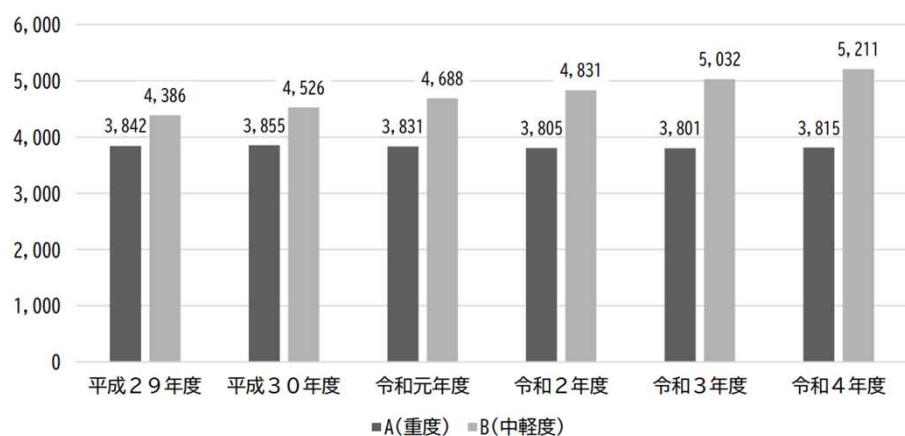
出典:徳島県障がい者施策基本計画(2024年から2029年)

8

7

療育手帳の所持者数推移

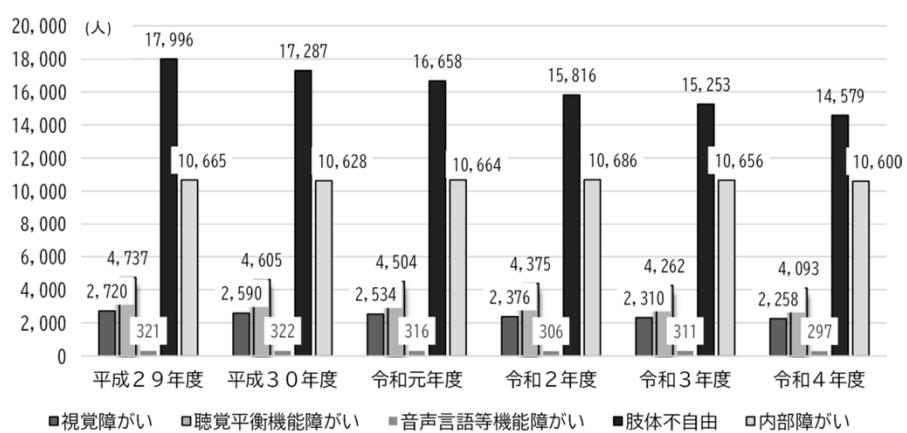
療育手帳所持者数の程度別推移



出典:徳島県障がい者施策基本計画(2024年から2029年) 9

身体障害者手帳の所持者数推移

身体障害者手帳所持者数の障がい別推移



出典:徳島県障がい者施策基本計画(2024年から2029年)

10

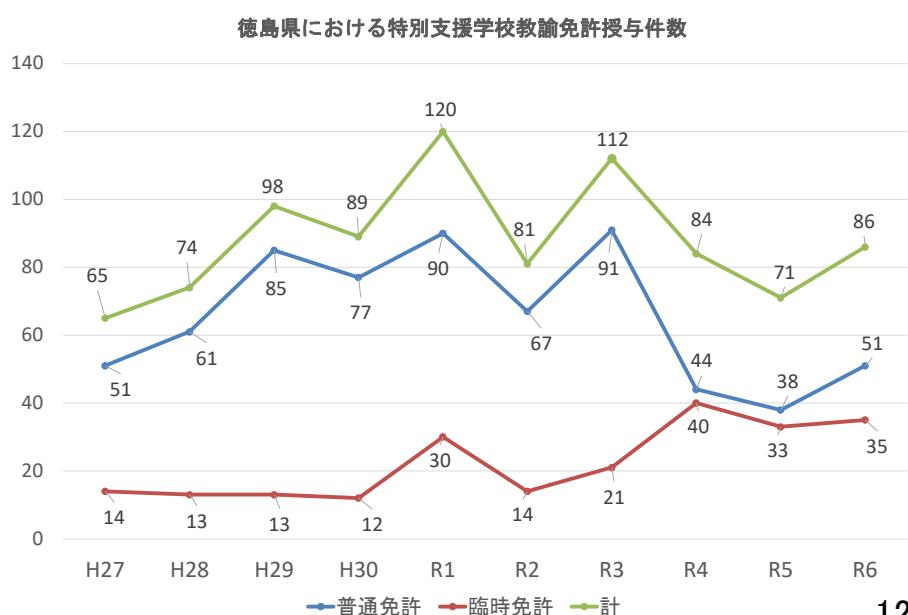
次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保

【委員の発言要点】

- (1)特別支援学校教諭の免許取得者数について
知りたい。
- (2)募集方法の工夫により、補助員・介助員的な
立ち位置の働き手を募集することで、人数確保に
つながるのではないか。
- (3)年度初め、教員の枠が埋まらない状態でのスタートで、
初めて特別支援学校で働く先生もいる。人材育成まで
手が回らない状況。

11

徳島県における特別支援学校教諭免許状の授与件数



12

特別支援教育「未来の人材」輩出事業

<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校に在籍する児童生徒が増加傾向 ○特別支援学校教員採用試験の受審者が減少するなど、教員不足が深刻な問題 ○障がいのある子どもたちが、積極的に参加・貢献していくために、時代に合った新たな分野を開拓 	<p>目的</p> <p>【障がいの有無に関わらず全ての人が活躍できる「共生社会」の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に携わる「人材確保策の強化」 ○共生社会の担い手となる次世代の「新たな分野における人材育成」を推進
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>特別支援教育に携わる「人材確保策の強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の魅力発信による人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学生を対象とした講演会の開催 ○障がいの有無に関わらずとも学ぶ協働活動 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生との交流や大学生のボランティア参加を促進 ○専門家等を交えた特別支援教育のあり方に関する検討 <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保策などの検討 </div> <div style="width: 45%;"> <p>共生社会の担い手となる次世代の「新たな分野における人材育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな分野に関する体験や学びの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを理由とした体験格差の解消 ○デジタル技術を活用した新しい学びや体験の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ARやVRなど、デジタル技術を活用した学びを推進 ○特別支援学校(肢体不自由)をモデル校とした「eスポーツ」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・eスポーツをとおした学びや体験を創出 </div> </div>	
	<div style="display: flex; align-items: center;"> 人材確保 X 人材育成 </div>
<p>特別支援教育に携わる人材を確保するとともに、共生社会の担い手となる「次世代人材」を育成</p>	

13

特別支援教育「未来の人材」輩出事業

特別支援教育に携わる次世代の「人材確保策の強化」

特別支援教育の魅力を発信

一流講師による研修

高校生対象:巡回講演
大学生対象:集合研修

高校生

特別支援学校の児童生徒との協働活動
【インターンシップなど】

特別支援学校で働くイメージを持つことで、進路選択の一助に。

大学生

大学生サポーターの募集

特別支援学校において、授業等をサポートする経験を通じ、入職時のギャップを解消。

特別支援学校教員採用試験の受審者の増加、若年層の離職者の減少

14

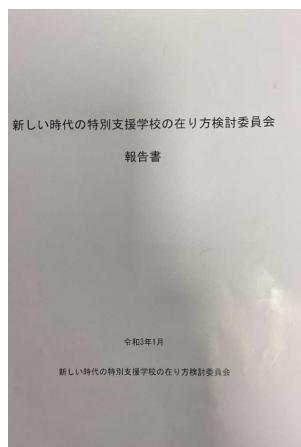
特別支援学校に在籍する児童生徒が、 可能な限り地域の中で共に学ぶ教育の実現

【委員の発言要点】

- (1)「みまカフェ」は、週1回地域の方が定期的に来てくれるシステムで、生徒が接客などをすることで地域との交流が生まれている。
- (2)手作りのものや野菜などを学校に買いに来てもらうことで、地域との関係性をつくることができる。地域の方に一歩踏み込んでもらえる学校づくりが大事。
- (3)重度の障がいがある方の交流は難しいため、地域の方に来ていただくのは有効な手段であり、次の教育者を発掘することにもつながる。

15

国府支援学校における取組 ダイバーシティの先導モデルとしての 「国府支援学校」の機能強化



「新しい時代の特別支援学校
の在り方検討委員会」報告書
(令和3年1月)を受けて、
報告書の内容を具現化

徳島県立国府支援学校

16

新校舎棟の概要



令和7年3月竣工

- ・ 鉄筋コンクリート造4階建て
- ・ 延床面積10, 000m²(3000坪)
- ・ 広々としたエントランス
- ・ 普通教室61教室を配置
- ・ 回廊型を採用し、採光がとれ全館LEDで校舎内が明るい。
- ・ 基礎的な教育環境を整備
図書室、男女更衣室、中庭、ランチルーム、各階にホール、職員室、保健室、会議室 等

17

1 知的障がい教育の基幹校としての「基本機能」

構造化を設計
段階から導入



教育環境の基本的な機能の充実



「新しい生活様式」を実現する普通教室

18

1 知的障がい教育の基幹校としての「基本機能」

快適な学習空間を実現
採光とLEDで明るい空間



全館空調システム
24時間換気ユニット

全館バリアフリー

児童生徒の安全安心のための
ユニバーサルデザイン

19

1 知的障がい教育の基幹校としての「基本機能」



リラックスルーム（小学部） リラックスルーム（高等部）

多様な教育ニーズに対応する機能

20

リラックスルーム(カームダウン)



小学部は
全教室に設置

小学部から、情緒の安定や他害を引き起こさない自律的な指導を開始

多様な教育ニーズに対応する機能

21

2 ダイバーシティを先導する教育内容 の在り方



「赤しその収穫」と「公園での遊び」(ふらっとKOKUFU)

地域一体型のキャリア教育(小学部)

22

2 ダイバーシティを先導する教育内容 の在り方



キッチンカーを活用したお接待
(ふらっとKOKUFU)



緑化フェアで製品を提供
(徳島市植物園)

地域一体型のキャリア教育(中学部)

23

2 ダイバーシティを先導する教育内容 の在り方



ふくっとマルシェ開催
(フジグラン石井)



清掃活動
(特別養護老人ホーム)

地域一体型のキャリア教育(高等部)

24

3 ダイバーシティの先導を支える 施設整備の方針



「カフェ」の設置や
「コミュニティショップ」
での販売学習



技能実習室の設置



多目的ホールで地域交流

「ダイバーシティ棟」の完成(令和9年) 25

3 ダイバーシティの先導を支える 施設整備の方針



「阿波おどり連」と交流
○天保連
○今昔物語組



生涯スポーツの場
サッカー、ボッチャ、
バスケット、モルック等

「新しい体育館」の竣工(令和8年10月)

26

3 ダイバーシティの先導を支える施設整備の方針



○寄宿舎の生活施設を活用



○災害時に備え、非常用電源を整備

地域の障がい者の避難所としての機能

27

4 地域人材(ボランティア)の確保



給食配膳ボランティアの皆さん

地域で学校を支えていただくシステムの構築 28

4 地域人材(ボランティア)の確保



大学生による授業補助、教材作成

地域で学校を支えていただくシステムの構築

29

4 地域人材(ボランティア)の確保

ボランティア体験、就職ガイダンスをとおして、
「特別支援学校教諭」を目指す方が増加

30

2

学校見学(国府支援学校)

31

3

検討事項に係るグループ協議

32

徳島県立特別支援学校の教育環境に関する有識者会議

◆ 本日のグループ協議における検討事項

(2) 次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保

① 多様化する障がいに対応できる専門性の担保・向上の取組

② 教員不足解消につながる人材確保策の検討

33

徳島県立特別支援学校の教育環境に関する有識者会議

◆ 目的

本県における特別支援学校の教育環境に関する現状と課題を整理し、実情に根ざした今後の教育環境の方向性を検討する。

◆ スケジュール

令和7年 9月 第1回会議（実施済）

10月 第2回会議（本日）

12月 第3回会議（次回）

令和8年 2月 第4回会議

34